



栄中だより

栄中開校57年「いいとこ探しの学校」自主・自律・親和・協力 笑顔あふれる栄中学校

草加市立栄中学校
令和2年度10月号
令和2年10月2日

りけん けん 離見の見

～自分を客観的に見る～

校長 今泉 正之

富士の初冠雪の便りが届き、朝夕は気温が下がり過ごしやすくなりました。そんな中、9月29日(火)には第3学年が、5月に実施できなかった中学校生活最後の運動会に代わり、「笑顔ではじまり、笑顔でおわろう～和で輪をつなぐミニ運動会～」をスローガンに学年ミニ運動会を実施し、多くの笑顔があふれる行事となりました。また現在、新人体育大会の草加市予選会が感染症対策をとりながら実施されており、1、2年生が練習の成果を発揮し健闘しています。大会の結果は11月号でお知らせします。10月9日(金)には生徒会役員候補者立会演説会(事前にビデオ収録)、10月29日(木)には、草加文化会館を会場に「赤とんぼ祭」(学年入替制で検討中)、11月には文化展示週間と、「やめる」選択肢でなく、「どうすればできるか」を考え、行事を実施していく予定です。中学生は学習だけでなく、部活動や行事などの取組を通して、挑戦する気持ち、成功・失敗体験、協調性など多くのことを学び、成長するものです。保護者の皆様には御心配をおかけしますが、御理解と御協力をお願いします。

さて、今回は「離見の見」について考えたいと思います。これは室町時代に能楽を大成した世阿弥が著した「花鏡」の中の言葉です。世阿弥は能を演じる際に重要な3つの点として、「我見(がけん)」演者自身の視点、「離見(りけん)」観客が見所から見る視点、「離見の見」演者が観客の立場になって自分を見ることを挙げ、自分だけの偏った見方・考え方の「我見」でなく、常に客観的な見方「離見」で自分の姿を「見る」こと「離見の見」の重要性を述べています。能でいうと、能役者が観客の立場になって、自分をそして全体をみることです。そして、自分を客観的に見る方法として、「目は前を見ている、心を後ろにおいておくこと」が必要だとし、「目前心後(もくぜんしんご)」という言葉で表現しています。

これは演劇の話だけではありません。学校でも言えることで、教員は授業を受けている生徒から、自分の授業がどのように見えるかを考えて授業をすること、学校と保護者・地域の皆さんが、お互いの立場を考え、リスペクトしあい、説明したり、行動したりすることです。学校では、生徒たちに相手の立場に立って自分の行動を考えさせることを生活面でよく指導し、各教科でも多角的・多面的な見方を学習させて将来の「離見の見」を育てようとしています。子供との関係に悩んでいる保護者の皆さんも、子供たちに接する時の自分の姿を客観的に見ることで、伝え方が変わることがあるのではないのでしょうか。

現在、SNS上などで、相手のことを考えず、自分の考えだけを声高に主張し、相手を強く批判することや、匿名であることをよいことに、相手の人格を傷つけるような発言が多く見られます。そんな時に、相手の立場になって、自分の姿を顧みることができれば、ずいぶん世の中が変わり、お互いを理解し合い、誹謗や中傷に苦しむ人が減っていくのではないかと思います。